

|    |               |
|----|---------------|
| 公表 | 事業所における自己評価結果 |
|----|---------------|

| 事業所名    | bonキッズ谷町 |   | 公表日 2025(令和7)年 12月 19日 |             |  |  |
|---------|----------|---|------------------------|-------------|--|--|
|         | チェック項目   | はい  | いいえ                    | 工夫している点     | 課題や改善すべき点  |  |
| 環境・体制整備 | 1        | 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。  | 12<br>(100%)           | 0<br>(0%)   | 色分けして利用者が分かりやすくしている。/ 合同でスペースを利用する際に上手くかち合わないようスケジュールの組立を考えられている等。/隣の部屋の子たちと接触がなるべく少ないように区切られていて良いと思う。/コンパクトに、視覚的にわかりやすく構造化され、且つ、個々に応じて柔軟に空間を変更されている(個別化)/構造化を工夫してます                       |  |
|         | 2        | 利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。  | 11<br>(91.7%)          | 1<br>(8.3%) | 低年齢な子や配慮が必要な子には出来る限り複数ではいるようにはしている。/ぎりぎりの体制ではあるが、サポートが必要なケースに関しては、スタッフ間で柔軟にサポートしあっている。そのために個々のケースの状態を共有するミーティング時間を設定している。/療育はまわせませんが、一人一人の内容をみんなで検討したり療育内容を考えよりこまやかに準備する時間がないです。           | 配置基準は満たしていますが、実働としては手薄と感じられています。業務内容の見直しなどが課題に挙げられます。  |
|         | 3        | 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。 | 12<br>(100%)           | 0<br>(0%)   | 色分けや用途に対応する視覚的提示などを行っている。/特性上、視覚優位の方にもわかりやすく必ず、言葉だけではなく視覚情報により伝えている。   |  |
|         | 4        | 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。                                 | 12<br>(100%)           | 0<br>(0%)   | 毎日清掃を実施している。/活動エリアや課題に取組むエリア等、利用児にとってわかりやすくなっている。/出来る限り清潔にはされていると思う。/活動内容やその日のケースの状態に合わせて、タイムリーに空間を変更するなどの工夫を行っている。  |  |
|         | 5        | 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。  | 12<br>(100%)           | 0<br>(0%)   | 三つの部屋を有効につかえている。   |  |
| 業務改善    | 6        | 業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。  | 11<br>(91.7%)          | 1<br>(8.3%) | 会議を通じ、担当以外の利用者についても目標や現状などの情報を共有して進めている。/職員が常時、振り返りを行っている。今日の目標をたて実行、振り返りを行い次の新しいプランを立てるなど他職員と情報共有をしている。/毎日 朝昼のミーティングはきちんとされている。/できる限り全職員が共有できるように出勤日でない職員はオンラインで参加するなど、ハイブリッド形式で会議を行っている。 | 朝礼・昼礼時やセッション終了時に振り返りや療育内容についての情報共有、定期的なケース会議を行っています。パート勤務の方には記録をチェックしてもらうことで周知に努めています。課題としては療育の準備と片付け、記録記載で手一杯になってしまう場面も見られるため、話し合う内容を絞り、短い時間で密に情報共有ができるよう振り返りのあり方を見直す必要があります。 |
|         | 7        | 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。                                  | 11<br>(91.7%)          | 1<br>(8.3%) | 会議の中で情報を共有して改善に繋げている。/モニタリングや 毎回のセッションも話しやすい雰囲気 保護者は気持ちを出しやすいと思う。/評価表の結果への対応はもちろんのこと、日々の療育の中で保護者の意向や希望を受け止め、対応するなど、常に保護者との協働を療育の軸にしている。  | 事業所評価アンケート以外に事業所独自にアンケートを実施しています。今後も保護者、利用者の以降等を把握に努め、ミーティング等で周知し、日々の業務に反映するよう努めていきます。   |
|         | 8        | 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。  | 11<br>(91.7%)          | 1<br>(8.3%) | 職員の思いを出しやすい職場空間がありそれを次に繋げていこうとするスタッフの姿勢がある。/定期的なヒヤリングの実施と共に、職員間で、経験、年齢を問わず対等に意見交換ができ、害に尊重しあえる仲間づくりを心掛けている。   | フォーマルな場面での聞き取り(個別面談)は年に1回行われています。また、社内独自でハラスメントに関するアンケート調査なども実施されました。慢心することなく今後も改善に努めていきます。  |

|    |  |               |              |   |  |
|----|--|---------------|--------------|---|--|
| 9  | 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。   | 8<br>661.7%   | 4<br>(33.3%) | 外部評価とともに、外部のコンサルテーションを通して助言を受けたり、見学者を前向きに受け入れて、意見交換の場を設けたりしている。/定期的に外部講師等にスーパーヴァイズに入っていたり、業務改善、支援のアイデア等の助言を頂いている。   |  |
| 10 | 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。   | 11<br>(91.7%) | 1<br>(8.3%)  | 参加できる研修がたくさんあり職員の資質の向上に繋がっている。/スタッフには研修年間パスが与えられ研修の機会がたくさん与えられている。/数多くの研修を提示していただき、補助もあり受けやすくしてもらっている。/人材育成研修機関（自閉症eサービスの年間実施研修を受講したり、法人内部では外部講師によるコンサルテーション、法人S.V.による研修などをタイムリーに実施している。                                  | 随時自閉症eサービスの自閉症特性等、スタッフの資質向上に向けた研修を行っております。研修案内や申込み期限などの周知に努めます。  |
| 11 | 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。  | 12<br>(100%)  | 0<br>(0%)    | 療育のたびに子どもの姿を通して保護者とともに支援プログラムを具体的に確認、修正をするようにしている。  |  |
| 12 | 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。   | 12<br>(100%)  | 0<br>(0%)    | 療育の中で保護者とやり取りする時間をもち保護者のニーズを取り入れた計画が作成している。/保護者の話をよく聴き、思いやニーズを把握しサービス計画をたてている。/事前に試作等を行い スタッフで話し合っ て 手順等を 相談している。/上記のように、療育のたびに確認し、修正、工夫をしている。しかし、準備、記録等に費やす時間が限られているので、良い効果的に実施するためには時間的余裕が必要と思われる。そのためには公的予算の引き上げが望まれる。 |  |
| 13 | 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。   | 12<br>(100%)  | 0<br>(0%)    | 常時管理者が他職員とも話し合いや子どもの様子を聴き取る等。/毎回 進め方は関係スタッフで話し合っ て決めている。/アセスメントは限られあ時間ないで、職員全員が共通理解できるようにケース会議を設定するようにしている。動画をフルに活用し、共有するようにもしている。/もっとチーム間で検討、共通理解を図りたい。  |  |
| 14 | 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。  | 12<br>(100%)  | 0<br>(0%)    | 上記のように職員間で共有し、支援の具体的な確認は児発管が中心に必要に応じて支援場面を共有したり助言したりするようにしている。  |  |
| 15 | 子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。  | 11<br>(91.7%) | 1<br>(8.3%)  | 療育の開始時にアセスメントを行い利用者に適した療育を行っている。/初期アセスメントはもちろん、療育のたびに必要インフォーマルアセスメントは実施し、保護者、職員間で共有している。本人の状況を共有するためにスキルのチェックシートを活用してデータ化している。  | 療育開始や必要時に、評価キットB1・B2等(独自のアセスメントツール)を実施しています。課題としてはフォーマルアセスメントに関しては、必要に応じて実施することを心掛けているが、一定時間を要するため、枠組みに苦労している点が挙げられます。 |
| 16 | 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。 | 12<br>(100%)  | 0<br>(0%)    | 本人や保護者、必要に応じて関係機関と連絡をとり支援内容を設定している。/年齢、生活状況などを鑑み、本人や家族にとっての優先課題を共有し、具体的に必要項目を設定し、実施して、家庭や学校、地域に還元するするようにしている。   |  |

|    |   |               |              |  |   |
|----|---|---------------|--------------|--|---|
| 17 | 活動プログラムの立案をチームで行っているか。  | 11<br>(91.7%) | 1<br>(8.3%)  | 会議で幅広く意見を集めている。/子どもたちを中心に活動を進めている。/話し合いはもたれている。/担当者が保護者と共到大枠を立て、チームで共有して、必要に応じて修正している。   | 支援計画を基にプログラム主担職員を軸として、職員の意見交換の上でプログラムの立案を行っていますが、時間は足りていないと感じております。   |
| 18 | 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。  | 12<br>(100%)  | 0<br>(0%)    | 利用者の状況の変化を取り入れながら療育を行っている。/時に必要に応じてスタッフがアドバイスやヒントを出している。/活動内容は毎回個別スケジュールに提示し、本人と共有して実施している。特に工夫しているのは、子どもが選択したり、組み立てたり、交渉したりする経験をもつことで、将来的に本人なりの自立を目指している。   |   |
| 19 | こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。        | 12<br>(100%)  | 0<br>(0%)    | 同じ時間の利用者同士で共同で活動を行うなど工夫している。/個別活動を中心に取り組む中で、必要に応じて場を共有している他児との交流を計画し実施している。また、年齢や興味関心に応じてグループ(クラブ)活動を実施している。   |   |
| 20 | 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。 | 12<br>(100%)  | 0<br>(0%)    | 打ち合わせや確認時間等を設け、確認し合っている。/限られた時間の活用として、朝のミーティング、午後一番のミーティングでその日の支援内容などを、伝達しあっている。   |   |
| 21 | 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。          | 10<br>(83.3%) | 2<br>(16.7%) | スタッフの思いや感じたことを自然に話せる環境ができています。/ミーティングはもたれている。/最終時間には、残っている職員間で話し合い、参加できなかった職員は記録を通して、共有するようにしている。セッションごとには、わずかな時間で振り返りをし、詳しくは記録を通して共有するようにしている。  | プログラム実施後に職員全体で振り返りのミーティングを行いたいです。話し合う時間は確保していますが、まだまだ足りていないとも感じております。 |
| 22 | 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。                          | 12<br>(100%)  | 0<br>(0%)    | 些細なことでも変化は見逃さず、スタッフ間で共有し記録に残している。/より具体的に記録し、必要に応じて録画して、共有するようにしている。次回改善が必要と思われることは、具体的に計画を記述するようにしている。   |   |
| 23 | 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。           | 12<br>(100%)  | 0<br>(0%)    | 保護者に寄り添い、モニタリングの時間を確保している。/日程、時間帯を計画的に設定し、実施している。  |   |
| 24 | 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。                    | 10<br>(83.3%) | 2<br>(16.7%) | 「①自立支援と日常生活の充実のための活動」ここに必要な生活スキルチェックをし、将来を見据えて今身につけるべきことに取り組んでいる。<br>「②創作活動」本人の興味関心に合わせて楽しめる活動(音楽、工作、描画等)を探し、活動に組み込んでいる。<br>「③地域交流の機会の提供」療育の回数や時間によって、十分に組み合わせていないが、地域に出て買い物や外出の機会、経験を重ね、家庭で活かしてもらっている。<br>「④余暇の提供」余暇として楽しめる活動が広がるように、様々な活動を提供する中で、自己選択する場を設けている。興味関心やできることを中心に活動を広げようとしている。上記のことを療育の活動の場で組み合わせ実施している。 | 外出活動時に、突発的に地域子ども達と交流する機会はありませんでした。                                    |

|              |    |   |               |               |  |  |
|--------------|----|---|---------------|---------------|--|--|
|              | 25 | こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。                    | 12<br>(100%)  | 0<br>(0%)     | 自己決定しやすいように選択肢を設けるなどしている。/こども自身に取組んでいくことを選択することで次の来所に意欲的になれるようにしている。/自発的コミュニケーションのための拡大代替コミュニケーションを個々の費用に応じて保障すべく実施している。視覚的スケジュールの中に、活動の選択、組み立てをするようにしている。今後、一層様々な活動の中で具体的に組み込んでいく必要がある。 |  |
| 関係機関や保護者との連携 | 26 | 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。                | 11<br>(91.7%) | 1<br>(8.3%)   | 会議だけでなく、電話連絡なども使用している。/子どもが療育場面で使用している視覚的スケジュールやコミュニケーショングッズ、教材等や必要に応じて動画を持参し、紹介する中で本人の特性や現在の様子を伝えるように心がけている。今後、全員の子どもに実施できるようにすることが大事である。   | 担当職員が出席できない場合は、児童管理責任者が代わりに参画しております。療育に支障がない限り、今後も子どもの状況をよく理解した者の参画に努めていきます。 |
|              | 27 | 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。              | 8<br>(66.7%)  | 4<br>(33.3%)  | 必要に応じて連絡をとり対応をしている。/一スによる等限られているが、必要に応じて連携している。相談支援事業を活用して定期的に関係者会議を開催してもらうよう、保護者を通じて働きかけている。保育所、教育機関とは、保育所等訪問支援事業で個別に連携している。  | 全員ではなく、状況に応じて各関係機関と連携して支援を行っています。  |
|              | 28 | 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。 | 8<br>(66.7%)  | 4<br>(33.3%)  | 夏休み期間等の情報共有ができています。/保護者からの相談を通して、情報共有や話し合いを実施している。個人情報の観点から一般的な情報共有はできるが個別に関して（虐待を除く）は保護者を通してもしくは、ダイレクトに共有する許可を得てから実施している。   | 保育所等訪問を実施し学校との連携を図っています。また、先生方にも来所して療育の様子を見て頂き、共通の支援ができるように努めていきます。          |
|              | 29 | 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。                | 8<br>(66.7%)  | 4<br>(33.3%)  | 保護者の依頼があれば実施。必要と思われるケースに関しては保護者と相談の受け実施するようにする。  | 保護者には契約時・モニタリング時に情報共有の機会が持てる旨お伝えしていますが、全ての方が利用されるわけではありません。                  |
|              | 30 | 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。        | 10<br>(83.3%) | 2<br>(16.7%)  | 希望があれば、アセスメントを実施し、報告（報告書、動画）する。また、相談支援事業所を通じて申し送りのための関係者会議を開催してもらっている。4月以降の申し送り等の機会を設けることができるための補償を公的に設定していただきたい   | 書面にて引継ぎを行っています。利用児童の状況に応じて他の市町村への引越しの際にも対応に努めていきます。                          |
|              | 31 | 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。                 | 7<br>(58.3%)  | 5<br>(41.7%)  | 地域交流は実施できていないが、独自に外部講師によるコンサルテーションは受けている。  | 地域の児童発達支援センターとの連携に努める必要があります。  |
|              | 32 | 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。                                  | 2<br>(16.7%)  | 10<br>(83.3%) |  | 外出活動時に、突発的に地域の子ども達と交流する機会はありませんでしたが、場面を設定することはありませんでした。                      |
|              | 33 | （自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。   | 9<br>(75%)    | 3<br>(25%)    |  | 毎回は参加出来ておりません。今後も療育に支障のない限り、参加するよう努めていきます。                                   |
|              | 34 | 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。                        | 12<br>(100%)  | 0<br>(0%)     | 必ず保護者との会話の機会を設け、こどもの様子を伝え聴き取りもしている。/保護者には、基本的に療育の場に参加していただき、いっしょに取り組むようにしている。また、参加のない保護者に対しては、その日の様子を口頭や視覚的に伝え、共有している。必要に応じて、動画を撮って、見ていただくようにしている。                                       |  |

|          |    |  |               |              |  |  |
|----------|----|--|---------------|--------------|--|--|
|          | 35 | 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。               | 12<br>(100%)  | 0<br>(0%)    | 保護者研修を行っている。/必要に応じて家族支援（居宅、オンライン）を利用してもらったり、研修の機会や案内、先輩保護者の話等はタイムリーに実施している。  |  |
| 保護者への説明等 | 36 | 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。   | 12<br>(100%)  | 0<br>(0%)    | 全体に向けての説明、個別での説明を、時間を取って実施している。  |  |
|          | 37 | 放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。         | 12<br>(100%)  | 0<br>(0%)    | 保護者、子どもの初回面談では、個々に時間をかけて実施している。  |  |
|          | 38 | 「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。                                 | 12<br>(100%)  | 0<br>(0%)    | その場で案を示したり、一緒にプランニングする中で進めている。   |  |
|          | 39 | 家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。  | 12<br>(100%)  | 0<br>(0%)    | 面談の時間を設けたり、電話などでの相談にも応じている。/療育以外に時間を取る必要があるときは、家族支援（オンラインや居宅、対面）の時間を設定し、実施している。タイムリーに家族支援に応じるためには、そのための要員を確保できるよう予算を確保することが重要である。法改正に伴う予算に加算の増額を計上することが家族支援の補償につながる。 |  |
|          | 40 | 父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。 | 7<br>(58.3%)  | 5<br>(41.7%) | 保護者研修をしています。   | 父母の会の支援は行っていませんが、保護者研修のグループワーク等で、保護者同士のつながりができるよう努めています。   |
|          | 41 | 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。                       | 12<br>(100%)  | 0<br>(0%)    | 担当者以外に、管理者、主に児発管が対応できるよう、体制を作るようにしている。   |  |
|          | 42 | 定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。                   | 10<br>(83.3%) | 2<br>(16.7%) |  |  |
|          | 43 | 個人情報の取扱いに十分留意しているか。  | 12<br>(100%)  | 0<br>(0%)    | 書庫には必ず鍵をかける。廃棄する際にはシュレッダーを用いて廃棄している。/個人情報のファイル等は鍵付きのロッカーに入れている。/メール添付で送るときはパスワードを掛けるようにしている。研修等の情報公開に関しては視覚的に説明し、視覚的に承諾を得るようにしている。                                   |  |
|          | 44 | 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。  | 12<br>(100%)  | 0<br>(0%)    | peccsなど表出の支援を行っている。/その子どもが理解できるための視覚的情報伝達手段を使用している。保護者に対しても専門用語は控え、具体的に重要なことは視覚的に伝えるようにしている。   |  |
|          | 45 | 事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。  | 3<br>(25%)    | 9<br>(75%)   | 地域のイベントに出店し、広報活動や地域の方達と交流を行いました。   | 来年度も企画が上げれば参加したいと考えていますが、事業所内でもどう交流を図っていくか検討が必要です。   |
|          | 46 | 事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。            | 11<br>(91.7%) | 1<br>(8.3%)  | 担当者を決め、計画的に実施している。   | 非常時に対応できるよう、各種マニュアルを策定し、スタッフや保護者がいつでも確認できる場所に設置していますが、情勢に応じてマニュアルを改善していけるようスタッフ間で情報等共有し、随時周知していく必要があります。 |
|          | 47 | 業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。                                  | 12<br>(100%)  | 0<br>(0%)    | 避難訓練をしています。  |  |

|         |    |  |               |              |   |   |
|---------|----|--|---------------|--------------|---|---|
| 非常時等の対応 | 48 | 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。  | 12<br>(100%)  | 0<br>(0%)    | 利用者台帳。/初期面談での確認、その後タイムリーに保護者に連絡を受けるようにしている。 |   |
|         | 49 | 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。   | 10<br>(83.3%) | 2<br>(16.7%) | 利用者台帳。                                      | 初回面談時に、アレルギー情報を記載したチェックシートを提出していただき、面談時に詳しく聞き取りを行っております。毎療育時に、バツと見て確認できるよう個別ファイルへの記載の仕方を改善していきます。 |
|         | 50 | 安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。                     | 12<br>(100%)  | 0<br>(0%)    |   |   |
|         | 51 | こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。                        | 11<br>(91.7%) | 1<br>(8.3%)  |   | 契約時に説明させて頂くとともに、入口に内容を掲示しております。アンケート結果に基づき改めて職員間でも周知徹底する必要があります。                                  |
|         | 52 | ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。  | 11<br>(91.7%) | 1<br>(8.3%)  | 危険だと気づいたことにはすぐさま対応している。                     | ヒヤリハット事例の作成・周知に努めます。  |
|         | 53 | 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。   | 12<br>(100%)  | 0<br>(0%)    |   |   |
|         | 54 | どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。 | 10<br>(83.3%) | 2<br>(16.7%) |   | 身体拘束等の事案が現状ありませんが、契約時に具体的に説明はさせて頂いております。  |